

全産業で売上減少と資金繰りの悪化が見られる。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど令和4年7～9月期実績と令和4年10～12月期見通しについての調査結果（回答数90社、回答率90%）をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

業況DI値について、前年同月比の今期（令和4年7～9月期）の状況を集計したところ、業況判断DIは、全産業、各産業とも変わらずマイナスで推移している。売上について、全産業で減少が見られ、特に建設業は▲8%から▲42%と大幅に減少した。売上減少に伴い、全産業で資金繰りの悪化も見られた。仕入単価は、未だに増加傾向にあり、今後も利益悪化・資金繰りに影響を及ぼすと予想される。

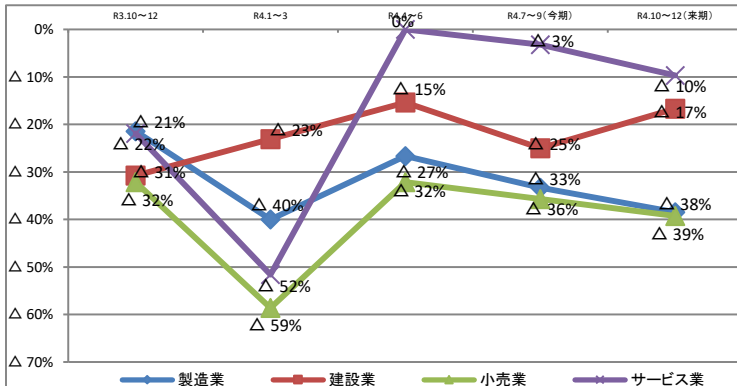
今期中に設備投資を実施した企業は全体の13%、来期設備投資を実施予定の企業は16%であり、わずかに設備投資への意欲が見られた。

経営上の問題点については、全産業で原材料等の価格の上昇、需要の停滞が上位に入っており、売上減少の一因となっていると予想される。円安が長期化することにより、物価の高騰が続く、更なる需要の停滞が懸念される。

◆業況DI値（今期の状況）

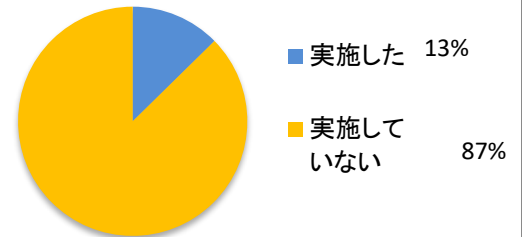
	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△ 24%	→	△ 25%	→	△ 22%	→	63%	→	△ 34%	→	△ 6%	→
製造業	△ 33%	→	△ 33%	→	△ 40%	→	87%	→	△ 53%	→	△ 15%	→
建設業	△ 25%	→	△ 42%	→	△ 17%	→	75%	→	△ 33%	→	△ 17%	→
小売業	△ 36%	→	△ 28%	→	△ 28%	→	59%	→	△ 45%	→	0%	→
サービス業	△ 3%	→	△ 6%	→	△ 10%	→	47%	→	△ 13%	→	△ 3%	→

◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）

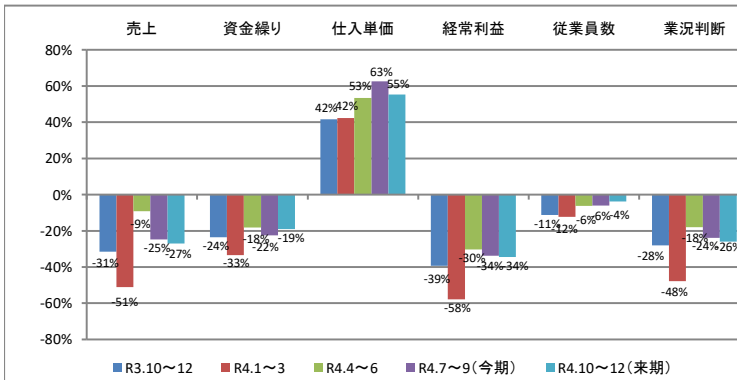


◆新規設備投資（今期実施・来期計画）

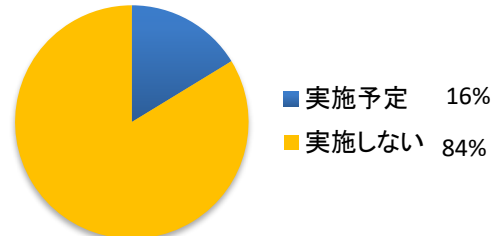
【今期設備投資】



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



【来期設備投資計画】



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	原材料価格の上昇 31.3%	材料価格の上昇 16.7%	需要の停滞 21.6%	利用者ニーズの変化への対応 15.5%
2位	需要の停滞 25.0%	官公需要の停滞 16.7%	仕入単価の上昇 20.3%	材料等仕入単価の上昇 14.3%
3位	生産設備の不足・老朽化 15.6%	民間需要の停滞 16.7%	消費者ニーズの変化への対応 10.8%	需要の停滞 11.9%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。